



# 婦人の病氣

醫學士 F. W 生君

婦人生殖器の病氣は文明の進歩に連れて、益々  
 猛勢を逞うするやうである。故に此病氣は野蠻人  
 よりは文明人に多く、下等社會よりは上流社會に  
 多く、田舎よりの都會に多い。今日に至りては「子  
 宮が悪い」とか「月經が不順だ」とか吐くものが  
 比々相接すると云ふ有様で、日常の新聞雜誌紙上  
 でも「婦人病一切によし」とか、「子宮病に特效の  
 薬」とか云ふ様な効能を并べ立てた賣藥の廣告が  
 益々多きを加ふる様になつた。これ誠に個人にと  
 り并に國家にとつて悲しむべき現象で、婦人の生  
 活及び習慣中、何處にか衛生の方則に背戻た所が  
 あるからでは無からうかと疑はれる、故に世に若  
 き婦人にして能々一心を顧みて、苟しくも悪しか  
 らんと思はるゝ習慣があれば、速に之を取り除く

やうにせば、奸商に欺かれて如何はしき賣藥にア  
 タラ大金を失ふことも無く又之がために徒に身體  
 を害ふことも無かるうと思はれる。

婦人病には種々あるが、子宮が通常の形を失ふて  
 前後左右に曲るとか、或は普通にあるべき位置を  
 轉じて一方に片寄るとか、又は下方に下がるとか  
 云ふことがある。是等の變位若くは變形のため多  
 くの苦痛を起し、屢々局部に潰瘍を生じ、又白帶  
 下及び月經不順等を來すことがある。

## 白帶下

とは病氣の名では無くして、只生殖器に變異の有  
 るのを示す一つの徴候である。服裝の不適當のた  
 め腔の粘膜に充血を來すか、感胃をひくか、若く  
 は胃弱に悩めるためにも亦白帶下を見ることがあ  
 る、耳、鼻、咽喉、眼、腸、生殖器等の様に絶え  
 ず外界の空氣に接觸するところは、凡て粘膜と稱  
 する薄き膜より掩はるゝもので、此粘膜は其乾燥  
 を防ぐがため絶えず少量の粘液と云ふ水分を分泌  
 するものであるが若し或原因のため此粘液分泌が  
 度を超ふる時は、通常之をカタルと云ふので、

腸胃カタル咽喉カタルなどと云ふのも皆此粘液分泌の過度である状態を指すのである。白帶下も亦生殖器の粘液分泌の過度なるがため生ずるもので、月経の前後には通常多少の粘液分泌の盛になるものではあるが、之が何時迄も長引いて其分量も益々多く、且つ悪臭を放ちて其色も血性を帯びることがあれば、學術手腕共に優れたる醫者に就て丁寧なる診察を乞ひ、自分からも能く衛生の常則を守つて其攝生に心掛けねばならぬ醫療を加へやうとするには醫者の撰定を誤つてはならぬ。玄關を廣くし廣告を大にして患者の耳目を引かんと欲し、『數日間に全治すること請合なり』とか、『禮状山の如し』とか大言する醫者は大くは山師で、學理實際よりは口と舌とで醫業を營む輩であるから、山師は巧みに僞言を弄して一方には病氣の重きを云ひて患者の心を驚かし、他方には自己の技能妙藥を誇つて患者の信用を繋がんとする。其手段の陋劣卑屈なること寧ろ驚くべきである。不幸にして讀者諸姉の中に婦人病に悩み給ふ方があらば、斯る山師醫者の甘言と奸策とに欺かれぬ

様に注意すること肝要である。生殖器の病氣は成る可く之を秘密にして親兄弟にも打ちあけず、獨り自ら心を碎て兎やせん角やと悶へ煩うのが人の常ではあるが、さりとして徒に手前療治を施すのは大に驚しむべきことである。一旦病氣になれば心の迷ひの生ずるのは誰しも同じことで、我ながら笑止と思ふ事に迄も眼のくらむものであれば、平素健康な時には『實藥など』と一笑に附し去つても、イザ病氣となれば『中將湯』、『月ごらへ』、『通經丸』よと人知れず秘用するものも少からぬのである。成る程數多い人の中には之を用ひて多少輕快したと云ふものもあらう。然しながら之は寧ろ僥倖りと云ふもので、何れの婦人病にも効能があると云ふ道理が無い。従つて長く之を信賴にして適當時に適當療法を怠れば、益々重態不治の有様に立ち到るの虞れがある。故に自分一人の心に決し兼ねる時には、早速『かゝりつけの醫者』を訪ひて事情を具し、其指揮を仰ぐのが安全である。若し他の醫者に診察て貰ふと思ふならば、道德心が堅固で、人格が高尙で、

相當の學識經驗を備へた者を撰ばねばならぬ。自分からは消化し易い滋養物を日々の食料となし、衣服は清潔にして寒からぬを度とし、充分に睡眠し、適度に運動し斯て全身の健康を助長する様に心掛ける。腰湯全身浴冷水摩擦杯は身體を清潔ならしむると同時に、血液の循環を良くするものであるから、白帯下、血液の鬱滯、月經不順其外の生殖器に効能がある。

初めて月經のあるのは我國人では平均十四五歳であるが、中には十一二歳頃からあるものもある。七八歳になつても無いものもある。體質が虚弱で榮養の良く無い女子は全身の活力も乏しいから、月經を見ることも遅く或は全く見ぬことがある。

かゝる人は一般の榮養を高めて其健康を増すべき筈で、人為的に出血せしめやうとして催經藥などを用ふるのには宜しくない。體質榮養共に良き相當年齢の婦人に月經が無くつても、別に方法を講ずるに及ばず静に表はるゝ日を待つのがよい。

月經が只一度あつたのみで、其後數週數月を経て再び之を見ることの無いのは珍らしくない、他

に何等の異状も無ければ別に心配するに及ばぬ、只心身を安静にして其過勞を避ける様にする。少女などでは學校へ通學する間は月經が無く、休暇になれば表はれてくる事がある。これは腦力精神を勞する間は活力の大部分が其ために費されるから月經作用を營むには力の足らぬためである。

故に心身の安静は必要である。

經血の分量。少ければ如何かして之を増さうとするものもあるが、全體經血の過量なのは寧ろ人為的生活の結果であることが多く、平素の生活が自らの規則になつて居る程經血の量も少いものである。故に全身の健康さへ異状が無ければ、よくや經血の分量が少くとも決して心配するに及ばず寧ろ己れの生活が自然的であるのを喜ぶべきである。然し感冒疲勞、心配、苦慮、神經衰弱などの爲めに急に經血の分量が減じ、局所、或は全身の病氣の爲め徐々に經血量の少くなる様な時には、宜しく醫者の診察を乞ふて其病源を見極めねばならぬ。

月經は通常三日乃至七日位續くもので、四日乃至

五日位の者が最も多い。其出血の量は平均二百五十瓦位であるが、人によりて多少の相違がある。故に月經の長い短いと云ふのも、出血量の多い少

いと云ふのも要するに比較上の言葉であつて、其間に一定した標準のあると云ふのでは無い。例令分量が多くても身體の衰弱も無く、貧血する様子

も無ければさして心配するにも當らない。只月經前から心身の過勞を避け、月經中は靜に安臥する様にし、或は下腹部に濕布綳帶を當て、便通をと

のへ、消化し易き飲食物を攝る様にする。全身の衰弱を覺える時には早速醫者に診察て貰ふ。徒に通俗衛生の書物や、素人の言葉を便にして勝手

氣儘の事前療治をなし、或は賣藥の廣告に欺されて恢復し難き後害を貽し、他日の悔ひを招かぬ様にするのが肝要である。(婦人衛生雜誌)



▲可驚健足なる老人 英國のヘーソン、ウエストン氏は

徒步旅行家として有名なる人なるが本年七十歳の高齡に達し居るに拘はらず此程同國のホートランドよりシカゴまで千六百廿六哩の徒步旅行を思ひ立ち二十六日間に達する豫定にて出發したる由なり氏は今より凡そ四十年前に同じ道路を廿四日廿二時間四十分歩み又百哩の距離を二十時間と二十分にて歩みたるとありて大に世人を驚かしたるとありと云ふ

▲昨年のノベル賞牌受領者 世界に於ける最高名譽の賞牌と稱せらるノベル賞牌を昨年末に受領したる人々は平和に於

て伊太利のエルネスト、モネタ氏及佛國のルイ、ルノール氏にしてモネタ氏は昨年伊太利に開かれたる平和會議に盡力したるにて名高くルノール氏は佛國派出の海牙仲裁々判所常任委員なり化學に於ては英國のサークルクス氏にして、同氏はサリユムの發見ラザオメターの發明及び空氣中より窒素を得る方法の發見を以て有名なる人なり文學に於ては有名なる英國の文豪ルザアード、キプリング氏にして醫學に於ては佛國のラザエラ博士理學に於ては米國シカゴ大學のミケルソン博士化學に於ては伯林大學のプツフネル教授なりし由にて賞牌に附屬せる賞金は各七万六千圓なりしと云ふ